

新刊
紹介

For some in ancient books delight;
Others prefer what moderns write:
Now I should be extremely loth Not
to be though expert in both

『聖書に見る』

動物の世界』

橋本 重郎著

(同志社大学住谷篠部奨学金出版会・B 6
判・三六五頁・定価一五〇〇円)

この書の発行所「同志社大学住谷篠部奨学金出版会」は少し長過ぎる名前であるがそこから出版された書物、例えば「花伝書」(世阿弥)、「あるこころの歴史」(住谷悦治著)などは既に売り切れている程好評であって、私が紹介するこの書も、発行所のゆえにこの誌に掲載される資格をもつ。タイトルの「聖書に見る動物の世界」は

興味をひく題であり、一度この書を手にとって十数葉の写真版(ペン画)を見ていると聖書が書かれた風土に親しみを感じさせる。

聖書が含む六十六巻(旧約三十九、新約二十七)は、書かれた当初から聖書(正典)と成るとか、またはその中に加えられることを目的としてまたはそれを意識して記述されたものは一つもない。書いた人々はみな自分の生活の中から、生きるものの中から神を信じることは何であるかを述べている。それゆえに、聖書は文学であり、生活の中から生れた文書である。人間が動物とのかかわりを持ったことも当然であって、羊、牛、馬など哺乳類、うずら、くじやく、はとなどの鳥類、とかげ、へびなどの爬虫類が、あり、いなご、蜜蜂などと共に聖書に出ている。

聖書は注解書を読みながら正面から取組んで理解される書物であると共に、側面から「聖書の植物」(松村義敏著、富山房発行)、「旧約の天文学」(スキアパレリ著、森川光郎訳、教文館発行)、「聖書教育学」(浦上茂夫著、新生堂発行)などを通して

味読するののも一つの方法である。

岩波新書の経済、社会の部門にもサルトル著安堂信也訳「ユダヤ人」(昭和三八年第二刷)や、同じく新書シリーズの宗教の部からはシグフリード著、鈴木一郎訳「ユダヤの民と宗教」(一九六九年、第九刷)などがある。聖書は日本でも分冊や点字の聖書を含めると、一年間に四百九十一万八千三百九十二冊(一九六九年)、その前年は四百四十八万六千六百五十二冊(一九六八年)売れているのだから(旧約だけ整本されたものは一九六九年の一年間に五十六万二千冊、新約だけの完全整本されたものも同年一年間に五十五万八千冊)毎年ベストセラーの中に入っていてよい筈ではなからうか。

これだけ聖書は毎年売れているが、どれだけ聖書は読まれているのであるうか。読ませるためには、もっと聖書に興味をもってもらわなければならない。

そこでこの本の登場する幕が開かれてくる。「河馬を見よ、これはあなたと同様にわたし(神)が造ったもの」と人間ヨブに語りかける神の言葉がヨブ記にある(四〇

・一五)。ところがこの河馬は元来ベヘモ
ート「巨獣」という意味だと、著者橋本先
生は説明している。橋本先生は九州大学、
東北大学の農学部教授を経て目下精華短大
教授。動物学、畜産学の専門家であるから
この書の中に書かれていることは正確であ
り、しかも読み出したら止められないほど
興味深く記されている。(山崎亨)

『旧約聖書概論』

山崎 亨、高橋 虔著

(東京日本基督教団出版局・A5版・三七
八頁・定価一三〇〇円)

旧約聖書は古代ユダヤ人の中でも、すぐ
れた思想家たちの書いたものと、全く田園
生活者としての農民や街の中の住民たち民
衆たちの書き、唱い残したものととの集成で
ある。イザヤ書などの預言書を前者とすれ
ば、雅歌や箴言(一〇章一二・一六)は
後者であろう。

旧約聖書が現在の形に編集され、完成さ
れたのは紀元後九〇年頃であるが、それ以
後ユダヤ教ラビたちによって、またキリス

ト教の多くの学者(主として欧米の大学神
学部教授たち)によって批判検討されてき
た。オックスフォード、ハイデルベルク、
ハーバードなどの諸大学の神学部研究室に
入ってみると、数十万冊の書物は聖書の批
評学的研究の成果を記録している。

この「旧約聖書概論」は、旧約が含む三
十九巻の書物に対する過去の研究家の検討
の結果がどのように進展し論争されたかを
略述するとともに、現在両教授はどの立場
をとっているかを明白にしている。

わが国にも旧約の概論とか総論とか題さ
れた単行本は十種類以上刊行されてきたが
現在のところ、この書は最高の学的水準を
ゆくものというべきであろう。(遠藤)

『新聖書大辞典』

(キリスト新聞社・A4判・定価二〇、〇
〇〇円、一五七〇頁・付録二三〇三頁)

本書の編集委員の中には神学部教授遠藤
彰、編集顧問には高橋虔、山崎亨両教授が
参加している。この責任のため原稿締切間
際に、余分の項目を急に担当して、印刷校
正に間に合わせた。上述の三名は各々十項

目ほどを担当し執筆した。

この大辞典の特色の第一は現在日本にい
る聖書学者の全部を動員したことであって
年輪的にいうならば、かつての同志社の教
授であった渡辺善太(文学博士は同志社大
学から)が「聖書の正典」の項に現在まで
の研究成果を傾注し、若い方では神学部助
教授の野本真也は「謙遜」の項で、ハンブ
ルグ大学に提出した博士論文の一端をひれ
きしている。「愛」の項では旧約の部を山
崎、新約の部を遠藤が仲良く執筆し、「倫
理」の項では旧約の部を山崎、新約の部を
高橋が分担している。

第二の特色は詳細なパレスチナの地図(歴史的経過)と近東アジア、近東の考古学
古址、パレスチナの考古学古址の地図と写真
(パレスチナの貨幣、エペソ古址、ピリ
ピの獄屋古址)、聖書の暦、度量衡、貨幣
価値の表など明細に付録として掲載されて
いること。

特色の第三は原語(ヘブル語、ギリシャ
語)が印刷されその発音、読み方がローマ
字で一つ一つ並列記載されて読者の便に備
えていることである。

(西村)